

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	390100287		
法人名	医療法人社団 帰厚堂		
事業所名	グループホーム若園荘(3階ユニット)		
所在地	〒020-0886 岩手県盛岡市若園町8番11号		
自己評価作成日	平成26年3月14日	評価結果市町村受理日	平成26年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100287-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100287-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年3月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の側に市内を運行する「でんでんむし」の停留所があり、ご家族様に喜ばれています。市内では人口減少傾向があるなか、若園町だけは増えているということです。利便性の面からも住みよい町であり、地域の方々との関わりを大切に、挨拶、草取り、資源回収の協力などから少しずつ繋がりを持ち、ホームを知って頂き、地域の方々と共に歩んでいきたいと思っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム若園荘」は、昨年3月に開所した2ユニット型のホームである。町中に立地しているが、昔ながらの小路や、神社、歴史ある小学校等が近くにあり、落ち着いた環境となっている。建物の2階ユニットには、利用者が男性も、女性もあり、それぞれお互いへの気遣い方などの行動が見られる雰囲気があり、3階ユニットは女性のみとなっており、雰囲気も違い、仲よし同士や、マイペースな方など多様で、それぞれ安心して生活できるよう支援が行われている。近くには幼稚園もあり、社会資源を活用しながら、ボランティア等の受け入れも今後したいと考えている。入居者の方々は近隣の方が多いので、住み慣れた地域の中での支援の在り方を深めながら、更なるホームの質の向上に向け、職員一丸となり、取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は来訪者に見てもらえるように、玄関に掲示している。また各ユニットのホールに掲示し、日々の業務に於いて理念を理解して実行するようにしている。	法人の理念を柱に、独自の理念をスタッフ全員で作上げた。「愛と誠の精神ご家族と地域のつながりを大切にやさしさと思いやりの心であなたらしい生活を送れるよう支援します。」を掲げ、毎朝唱和し、共有に努めている。利用者の多くはこの地域に住んでいる方々で、若い頃の思い出を大切に、また家族の思いを大切にしながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	早朝清掃活動や地域の資源回収に参加して、地域と交流している。秋には文化祭に作品を出展し、地域の皆様のすばらしい作品を見学することができた。	開所から1年経過し、職員は地域の清掃活動に月1回参加し、利用者はアルミ缶や、段ボール箱を出したり、地域の顔なじみになるよう努めている。地域の方々は高齢者が多いので、勉強会(認知症、感染症、食中毒等)を開催したい意向である。ホームの駐車場を利用して、夏祭りなどによる地域とのふれ合いを考えている。	法人の合同広報誌は作成されているが、独自の広報を月1回発行する予定もあり、事業所からも情報発信をし、地域の一員として関わりを深めながら(緊急時の際も含め)協力関係が築かれるよう、より一層取り組んでいくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設前から地域の皆様の注目度が高く、開設後すぐに町内会会員の視察があった。さらに民生・児童委員の研修では施設の見学の他に、認知症についての説明を求められた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の入居状況と活動内容の報告を行っている。家族からの参加もお願いしている。頂いたご意見をもとにサービスの向上に繋げるよう努めている。	運営推進会議の委員には、近隣3地域の町内会長、民生児童委員、地域包括代表、家族代表(2名)がなっており、会議の中では非常時の際の避難場所の確保と避難経路についての話があり、その実施に向けた取り組みを話し合った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設から5ヶ月で盛岡市の実地指導を受け、施設運営に関する指導を受けた。運営上の相談は介護高齢福祉課と連絡を取り、解決策のアドバイスを頂いている。	市の担当者とは、介護認定の変更、更新、制度上の解釈、運用の方法の仕方についてや、利用者、家族からの相談に乗って頂いた例もあり、安心して生活できるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加し、拘束をしないケアを実践している。	内部や外部の研修を実施している。新人職員は法人で受講した後にホームで勤務することとなっている。外出傾向の方には、傾聴に努めて原因を探りながら家族に電話したり、散歩、ドライブを工夫している。また、2階3階とそれぞれ1名ずつの方が、離床センサーを利用しており、背中がベットから離れた際に感知し、転倒防止のための取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修に参加して、職員の意識統一を図っている。マニュアルを作成し、虐待の早期発見に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて介護高齢福祉課に相談したり、法人内で講師を招き制度の理解を深める。チェック表を用い自己評価を行い、支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	市の実地指導の指導内容・箇所を見直し、契約時には説明・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加してご意見をいただいたり、家族の来荘時に状況報告しながら、施設への意見や要望を伺うよう心掛けている。	職員は利用者の表情や、目線に気をつけながら、会話を努め、家族からは、来訪時に意見・要望を聞き、誠意をもって対処し、理解が得られた例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員が意見や提案を出せる雰囲気をつくり、職員の意欲向上に繋げていく。	職員会議や仕事でも、なんでも話せる雰囲気づくりがなされている。様々なアイデアや提案が出され、取り入れられている。季節ごとの行事(みずき団子、ひなまつり、お正月等)で、季節感を感じてもらえるように努めている。外部評価の実践状況を2階、3階の職員にそれぞれ記入してもらい、管理者がそれを纏めた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週一回の巡回の際に施設の現状を報告し、職員の勤務状況についても報告相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上にむけて、外部研修の機会があれば積極的に参加するような体制ができています。法人内での勉強会にも勤務調整しながら参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会に参加して、共通の問題や課題を話しあう機会を持っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話の中から意向を見出せるような傾聴に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	帰宅要求が続く利用者に対しては、思いを傾聴し家族の協力を得て、家族と外出を試み安心に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって必要としている支援を見極め、毎日の申し送りの時間を利用して、ユニット合同で行い、情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お花やお茶を得意とする利用者には先生となってもらい、役割としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほぼ毎日、仕事の帰りに来訪され、親子の関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若い頃に歩いた馴染みの散歩コースをゆっくり歩いたり、行き付けだったお店でコーヒーと一緒に飲む等して、馴染みの関係の継続に努めている。	馴染みの人や、場所等の把握については、入居してからの会話の中から把握している。この地域に昔から住んでいる方が多く、川徳デパートや、みかわや等への外出や、散歩コースである近くのコーヒー店に寄ったり、美容院には家族の協力で出かけたり、買い物もこだわりのある方には支援に努めるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	対話しやすい入居者同士席を並べたり、スタッフが仲介することで会話に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も当法人の関連施設を利用して、その後の情報を得ている。家族からの相談に応じたり、他施設の情報提供に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から意向の把握に努めている。思いを傾聴し、何度でも納得できるよう話し合っている。	職員は「否定せず、まずは聞きましょう」をモットーに日々の訴えに耳を傾け、日常の会話を大切にしながらケアプランにも繋げるようにしている。今後は、センター方式の様式を一部取り入れて各種帳票との連動性を図りながら、利用者の意向の把握に努めたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を記入してもらっている。入居後も親戚や友人の会話を通してこれまでの暮らしの把握に勉めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、心身の状態の変化を見逃さず細かく記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を取り入れながら、状態の変化に合わせた介護計画を作成している。また毎月の業務会議でカンファレンスを行い、看護、介護から意見を出し合っている。	利用者の担当職員がおり、毎月、業務会議の際、カンファレンスを行い、ノートに記録しているものに、家族からの要望を取り入れながら、会議に諮り、介護計画を作成している。具体的には、帰宅願望のある方の家族からは、ホームの生活に慣れて欲しい等の要望があり、利用者の傾聴に努め、気分転換を図りながら、外出するなど工夫し、対応したりしている。3ヶ月ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子を個別に記録し、情報を共有している。変化があった場合は各ユニットでカンファレンスを行い、状況の変化に沿った介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により通院介助を行っている。また家族に代わり墓参りに同行するなど、多様な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供会行事である花植えに参加予定だったが、猛暑により断念し、その後涼しい時間に水やりを行い、また地域の方々にも水道を自由に使ってもらった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には主治医は法人病院となっており、契約時に家族からの了解を得ている。週一回の往診により日常の健康管理と状態の変化への対応が可能となっている。	当グループホームは、医療法人が母体となっており、理事長の自宅が近くにあることから、毎週火曜日の訪問診療や夜間緊急時の対応可能となっており、健康管理に努めている。他の専門医の診療は家族対応を基本としているが、事情によっては職員が対応し、受診報告は家族とも連絡を密にし、支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が日常の健康管理や観察を行っており、変化があった場合に主治医と連絡をとり指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と連絡をとり、早期退院に向け支援している。また家族とも連携をとりながら、退院後についての相談に応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における対応について契約時に家族の意向を確認し、医療機関と連携し支援を行っていく。	現在の利用者の介護度は、要介護1、2の方々であるが、今後に向けて家族と契約時に話し合い、法人運営の老人保健施設、養護老人ホーム等と連携を図りながら取り組むこととしている。今後の課題としては、職員全員で方針の共有を図るための勉強会を実施すべきと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成して、防災についての意識を高めている。救急救命法の研修会を定期的実施して、実践力を身につけたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施している。災害時の対応として、近隣の職員と地域住民への協力依頼を呼びかけている。	避難訓練は消防署員立ち会いのもと実施している。利用者の居室が2階、3階となっているので、消防署からの指示を仰ぎ、非常口付近を集合場所としている。備蓄も、多種多様に準備し、非常時に備えている。地域の協力体制はこれからとしている。	夜の景色が暗くなった時の足場の違いや危険な個所等を把握し、適切な判断と対応が出来るよう職員自身が体得していく事が大切である。併せて、地域の方々の協力が得られていよう、具体的な取り組みを考えて行くことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の接遇研修に参加して、利用者への礼儀や言葉遣いについての意識を高めている。	職員は利用者一人ひとりを人生の先輩として、尊厳を大切にすることを念頭に置きながら、敬意を払うよう心がけている。居室は利用者の家であるので、ノックして入室するよう配慮し、プライバシーも他者から見えないよう着替えなどを行っている。ホールでのトイレ等の声がけも耳元で話すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から利用者の思いを汲み取り、実現に向けての支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を聞きながら、柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重しながら、馴染みの美容院に連れて行ったり訪問美容を利用したり、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	髭剃り等を忘れていた時は声をかけ、いつまでも身だしなみを意識していただけるよう支援している。	利用者の好みに合ったメニュー作りと、バランスを考えながら提供している。朝食にパン食を希望する方もあるので要望に応じている。食材の買い出しは、職員がしており、近くのお店からは配達をお願いしている。イベント食をととても楽しみにしているので、職員手作りのバイキングを実施し、とても喜んで頂いた。家族にも食事のメニューを伝えたいとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に沿った食事作りを行っている。食事チェック表を用い、一人ひとりの摂取量を把握し、水分量は状態に応じた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き介助を行い、夜間は義歯洗浄剤を使用し清潔保持をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位、歩行に不安がある入居者に対して、夜間は枕元にナースコールを置き、知らせてもらい、直ぐに対応して失敗を減らす支援を行っている。	比較的介護度の低い利用者が多いので、自立出来ている方(2階4名、3階3名)は、排泄チェック表で声掛けや、誘導で支援している。排泄後は、必ず確認している。夜間の排泄については、定期的な声掛けでトイレでの用足しが対応可能になった方もいる。ポータブル使用の方は、2ユニットで2名程いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の飲水を呼びかけ、提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合う同士で、一緒に入浴を望む入居者には、希望に沿って楽しんでもらっている。	基本的には、日中に週3回の入浴としているが、随時対応もしている。当初は、夜の希望もあったが、人員体制もあり、夕方から徐々に日中に実施するなど工夫し、現在は問題なく入浴支援が行われている。入浴中の利用者との1対1は、リラックスタイムで、普段見た事のない表情や生活歴、趣味などが聞ける場所となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠できるまで明るくしていたい人、全消灯したい人、状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理を行い、処方箋の変更があった場合は看護師が介護記録を用い、職員間での情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸の好きな利用者には、作品完成後に文化祭に出展して満足感を感じてもらい、専業主婦だった利用者などは力量に応じて、家事仕事に参加してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	デパートでの買い物や外食など、家族の協力を得ている。	利用者の自宅に行き花を摘んだり、お彼岸には自宅に帰られたり、皆でドライブや買い物に出かけている。季節によっては、雨や雪が多かったりして中止せざるをえなかったこともあるが、これからも歩いての散歩や外出を多くしたいと考えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は施設で行っている。必要に応じて預かり金から購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙を読んでもらったり、贈り物を居室に飾ったりして、共に喜び合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には季節に合わせた装飾を行っている。車椅子でスムーズに移動できるように家具の配置を工夫している。	壁には職員との共同作品で、折り紙で作った一足早い桜の花が満開である。ほかにも様々な行事(お茶会、コンサート等)の笑顔いっぱいの写真が掲示されている。大型の加湿器も設置され、テレビの前には大きなソファが置かれ、それぞれが、自由にくつろげるよう支援されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中にも「自分の席」を決めて、安心して過ごせる環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持参頂いている。居室には自分の作品が飾れるように工夫している。	グループホームで備え付けられているものは、ベット、整理タンス、洗面所、クローゼット、衣装箱2個などで、その他は、利用者はそれぞれ馴染みのものを持参して頂いている。2階ユニット、3階ユニットとも居室からの眺めも良く、採光も充分であり、居心地良い清潔感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子で安全に移動できるように、ゆったりとした空間作りをしている。廊下の手摺りは、安全に歩行する為に設置しているが、時には利用者のリハビリ目的にも使われている。		